

にじいろのパレット

令和4年 3月

第45号

① ~コロナウィルスの流行~

そこから学んだ五つの体験談



①
すでに虹の郷すわのホームページで随時報告を行っていたように、当施設ではコロナウィルスの猛威によって通常の施設業務が行えない期間が続いておりました。先日ようやく収束を確認し徐々にサービス再開を行っています。

ご本人・ご家族様・ケアマネジャー様ら関係機関と、本当に多くの医療・行政機関にお世話になりました。誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

まだまだ流行が見られ、特に「人と相対しての仕事」であるこの業界において、またいつ・どこで発生するかというも避けて通れないリスクであります。

「一体どのような状況だったのだろうか」と皆様も気になるかと思ひ、少しでもお役に立てるよう限られた紙面ではあります。施設にも確認していくつか生の体験談をお伝えいたします。

内容は専門的な話題ではなく、体験談としてお届けして参ります。

① 消毒・換気・防護系の正しい着用着脱はもちろん、「寒い・暑い」もあるけれど換気の必要性が高い。また「使用方法は大丈夫か」を職員相互でチェックしよう。また確認事項が明確なホスター等にまとめ、一目で皆が分かるものを作る。

② 医療・行政・搬送など、どの機関も手一杯で決定に時間を要する。また連絡があった後「あっ」という間に次の調整になるため、事前に書類・情報・移動準備（荷物とか持参するもの）を行っておくと慌てずスムーズに業務が行える。

③ 人や環境に対して、様々な連絡・提出書類・確認事項を求められる。対応できる人員数も課題になると考えるが、時系列で状況を記録し、様々な人が見やすく、問合わせに対応できるように整える。

④ その事業所ならではの特徴があるため、どんな特徴なのか自分たちがまず理解し、それに沿った対応を考える。例えば、老健ならではの特徴（居室やリハビリについて・移動の自由度）を踏まえて対応を行う必要がある。

⑤ 長丁場になることも想定し、職員も意図的に休める時は休む。そのためにも前述までの対応を心がける。

今回紙面でも記載させていただきましたが、本当に色々な方にお世話になりました。もちろん中の職員も全力で取り組みまして色々な経験をいたしました。繰り返さないように細心の注意を払いながら、とはいえ100%の対応は難しいものだと痛感しています。今後も変わらず「開かれた相談・話しやすい施設」として努力して参りますので、今回の件も含めて遠慮なくお問い合わせください。今後も変わらぬ連携と情報交換を行わせていただければ幸いです。 (上下 黄・青…CMや事業所向け)

(連絡先・発行元)

〒374-0036

群馬県館林市諏訪町 1509

QRコード [はこちら](#)

医療法人康生会(社団)

介護老人保健施設 虹の郷すわ

相談室



Tel: 0276-71-0123

Fax: 0276-71-0125

Url: <https://tsutsujimental.jp/sw/>